資料　1

町田市子どもの発達支援に関する意識調査【速報版】 結果のまとめ

調査結果のまとめ（町田市子ども発達支援計画の3つの基本目標ごとに整理）

◎子どもの成長（基本目標Ⅰ）

・「子どもの遊びや体験の機会の確保」についは年齢が低いほど高く、特に未就学児は約 52%、小学生は約 45%が必要としています。「主な外出先」として、お店や公園、習いごとが多くなっています。

・生活で困っていることが多い保護者は、子どもの外出頻度が少ない傾向があります。

・積極的な社会参加のため、「友だちやサポートしてくれる先輩の存在」や、「参加しやすい趣味・スポーツ等の講座」、「活動のための情報提供」、「障がいなどに配慮した施設や設備の充実」を必要とする割合が高くなっています。

・未就学児の場合、「発達や保育、教育の相談」を利用している割合が高く、就学以降は、放課後等デイサービスの利用率が成長につれ高くなっています。しかし、「サービスを利用していない」割合は、就学後大幅に増加しています。

・教育で必要な支援について、「子どもの特徴に合わせた教え方の工夫」、「授業時間内での配慮等」、「進学・進路相談」に対するニーズが高くなっています。

・一方で、保育園・幼稚園等や学校等における障がい児への対応では、「人的余裕がない」に次いで「障がい児への対応・支援方法が分からない」が多くなっています。

・障がいのある子どもが入園・入学する際に困ったこととして、「何度も同じことを説明した」「入園・入学を断られそうになった」とする割合が高く、「卒園・卒業した施設・学校からの引き継ぎが不十分」と感じている保護者も多くいます。

◎家庭や家族（基本目標Ⅱ）

・関係機関によると、在籍する児童生徒に対する気になる子の割合は約 11%（支援を受けている子は約 4%、受けていない子は約 7%）になっています。

・保育園・幼稚園等や学校等においては、保育中・教育中に気になる特徴に気づくことが多い一方で、保護者に伝えて支援につなげられない状況もみられます。

・保護者からは、相談先がわからなかった、支援が必要とは思わなかったと回答する割合が高く、こうしたことが支援につながりにくい原因と考えられます。

・保護者の状況として、子育てを手伝ってもらう人がいない保護者は、「働ける時間が限定される、または働けない」、「自分の時間が持てない」や「地域社会とのかかわりがない」等の割合が高くなっています。

・子どもの保育園・幼稚園等や学校での生活において、「困っていることがある」とするのは、高校生が最も多く、「職員の理解の不足」についても高校生で約

33%と、他の年代より多くなっています。

・日常の子育てについて、多くの家族が保護者のみで行っており、緊急時には、過半数の保護者は家族等に手伝ってくれる人がいます。しかし、約 3 割の保護者は、日常的にも緊急時にも、手伝ってくれる人がいない中で子育てを行っています。

・子育て等に関する情報源は、「在籍している保育園・幼稚園等や学校」「家族や友人・知人」「ホームページやアプリなど」の順で多く、「市の窓口と地域障がい者支援センター」は低くなっています。情報源が特にないとする保護者は約 11%です。「特にない」と回答した保護者は、小学生で最も多く、中学生、高校生と続き、未就学が最も少ない状況です。

◎地域社会とのつながり（基本目標Ⅱ）

・発達に支援を必要とする子どもについて、子どもが友だちと遊びにくい、友だちが少ない、地域社会との関わりがないと感じている保護者が多くなっています。

・共に遊んだり学んだりする友だちやサポートしてくれる先輩の存在や、地域の子どもと一緒に遊んだり体験できる機会を望む保護者が多い状況です。

・発達に支援を必要とする子どもの通園・通学先は、特別支援学校は約 12%で、小中学校の特別支援学級は約 26%、保育園・幼稚園等や小中学校の通常の学級は約 49%と、約半分の子どもは支援を必要としない子どもと一緒に過ごしています。

・発達に支援を必要とする子どもが地域社会の一員として生活するためには、自立して生活できるようになるための支援以外に、「地域住民などからの理解（約 42%）」や「地域活動などに積極的に参加できる環境（約 31%）」が求められています。

・障がいのある子どもが地域や社会への積極的に参加するためには、「障がいなどに配慮した施設や設備の充実（約 32%）」、「外出のための移動手段や介助の確保（約 21%）」が求められています。

目次

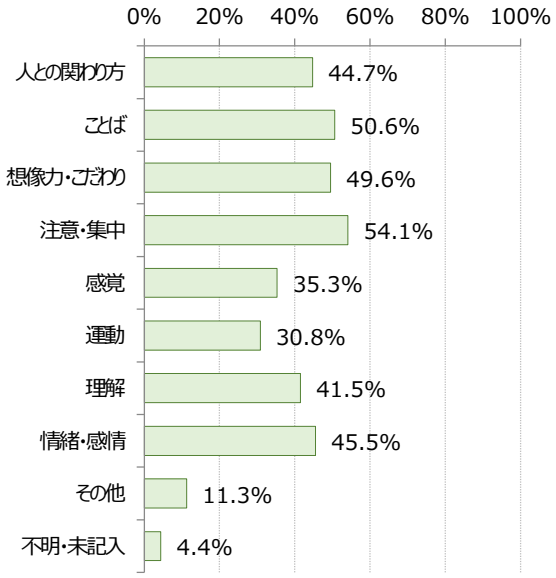
◆子どもの発達に関する状況 4
◆お子さまの日常生活について 6
●サービス利用 6
●情報収集 7
●困っていること 8
●成長に必要なこと 10
◆お子さまの外出や社会参加について 11
●外出の状況について 11
●地域社会で生活するための支援 12
◆お子さまの通園・通学について 14
●通園・通学先 14
●入園・入学する際や保育園・幼稚園等、学校生活で困ったこと 15
●教育で必要な支援 16
◆お子さまの発達特性に気づいた時期～支援につながるための状況について 17
●気づいたきっかけと支援につながったきっかけ 17
●支援につながらない状況 18
●保育園や学校等の機関における今後の支援 20

◆子どもの発達に関する状況

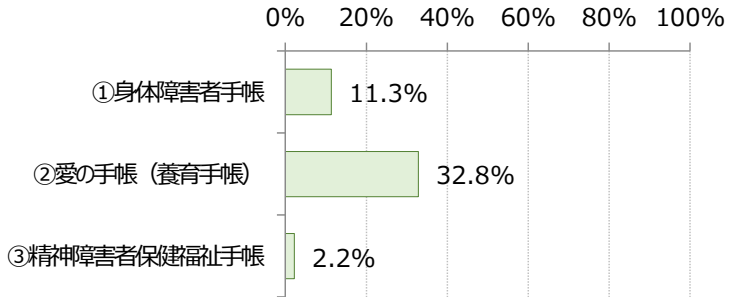
●育ちの面における気になる特徴や障害者手帳取得の状況

・保護者アンケート回答者における気になる特徴としては、「注意・集中」が約 54%で最も高く、次いで「ことば」が約 51%でした。障害者手帳については、「愛の手帳（療育手帳）」が最も多く、約 33%でした。

■保護者編：問 4　育ちの面における気になる特徴（n=1158）　速報版 p2-3



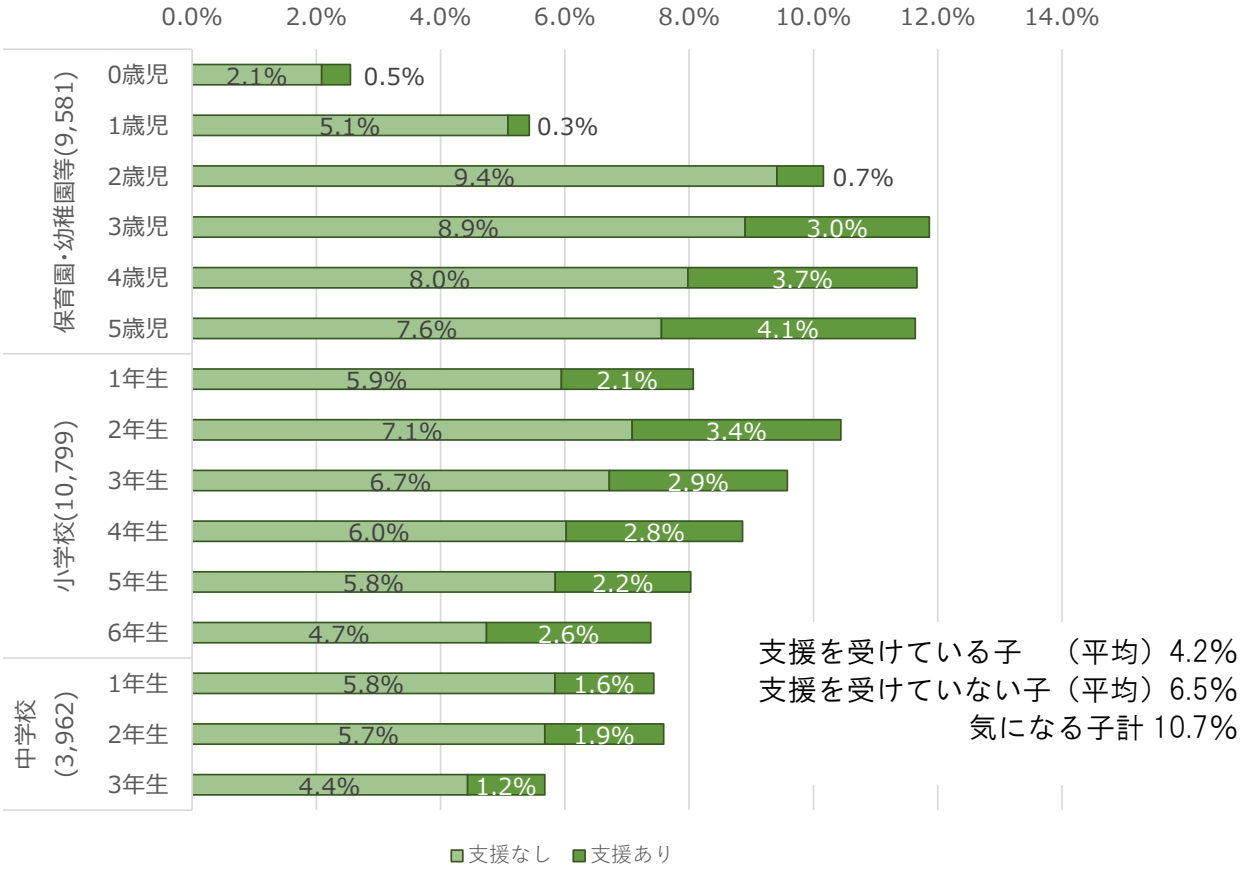
■保護者編：問 5　障害者手帳取得状況（n=1158）　速報版 p2-3



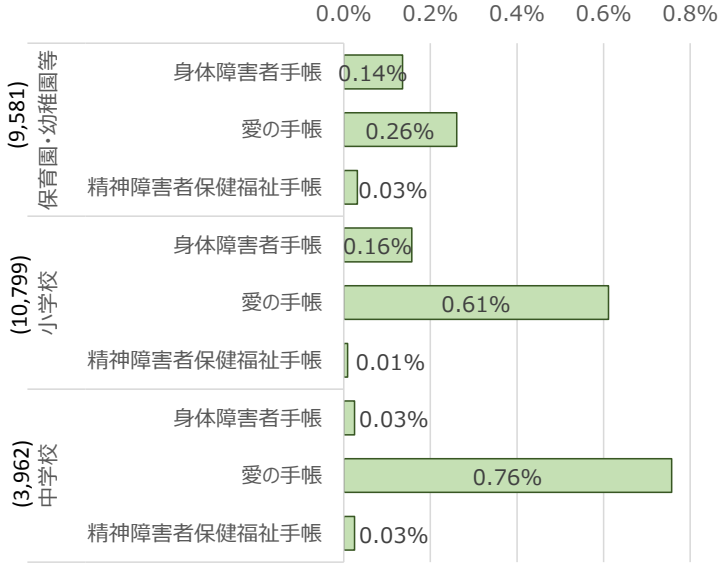
問４　気になる特徴
①　**人との関わり方**　：一人遊びが多い、集団に入らない　など
②　**ことば**　：言葉が遅い、おうむ返し　など
③　**想像力・こだわり**　：相手が傷つくことをいってしまう、こだわりが強い　など
④　**注意・集中**　：落ち着かない、集中力がない　など
⑤　**感覚**　：雷や大きな音が苦手、極端な偏食、すき間など狭い空間を好む　など
⑥　**運動**　：床に寝転がることが多い、極端に不器用　など
⑦　**理解**　：生活習慣が身につかない、全体指示が理解できない　など
⑧　**情緒・感情**　：注意されるとかっとなりやすい、感情が高まると興奮がおさまらない　など
⑨　**その他**

- 子どもが毎日過ごす保育園や学校等の機関において、気になる子の在籍児童生徒数に対する割合は、約 11%（支援を受けている子約 4%、受けていない子約 7%）になっています。
- 子どもが毎日過ごす保育園や学校等の機関において、在籍児童生徒数に対する障がい児の割合は、愛の手帳（療育手帳）所持児が多く、中学校では約 0.8%となっています。次いで、身体障害手帳所持児が多く、小学校で約 0.2%となっています。

■関係機関：問 6,7　気になる子の割合　速報版 p3-13,



■関係機関：問 11　障害者手帳を持っている児童・生徒の割合　速報版 p3-13,



◆お子さまの日常生活について

●サービス利用

・未就学児の場合、「発達や育児、教育の相談」を利用している割合が約 70%と高く、就学以降は、放課後等デイサービスの利用率が 27%から約 48%と、成長につれ高くなっています。しかし、「サービスを利用していない」割合は、未就学で約 5%に対し、就学後は 28%以上と、大幅に増加しています。

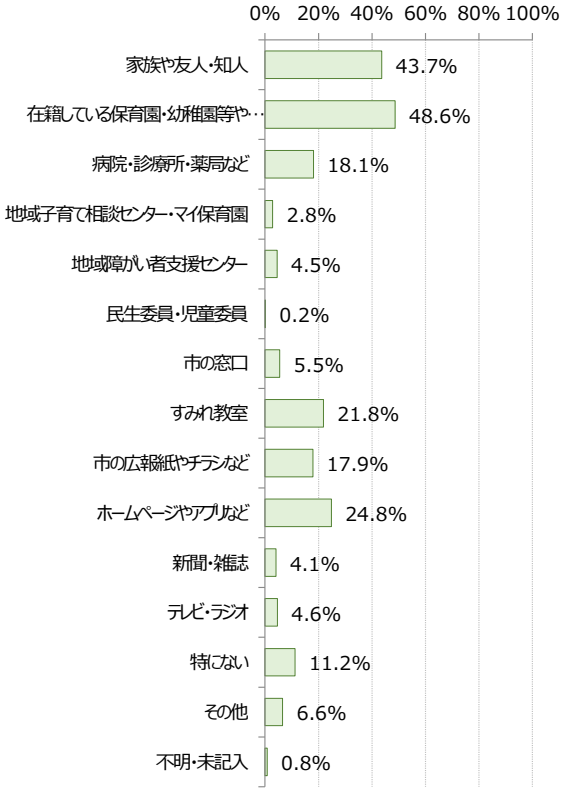
■保護者編：問 8　利用している支援やサービス　速報版 p2-7

	未就学 (n=338)	小学生 (n=538)	中学生 (n=161)	高校生 (n=101)
発達や育児、教育についての相談	69.8%	17.1%	10.6%	8.9%
児童発達支援サービス	23.4%	3.9%	1.9%	0.0%
放課後等デイサービス	2.1%	27.0%	36.0%	47.5%
保育所等訪問支援サービス	0.9%	0.2%	0.6%	0.0%
病院などでのリハビリや訓練	14.8%	10.8%	13.0%	15.8%
障害児サービスのケアプラン作成支援	2.7%	1.1%	1.2%	3.0%
通っている保育園・幼稚園等や学校での職員や教員の追加的な配置	18.3%	7.2%	3.1%	2.0%
居宅介護	2.1%	0.4%	1.2%	8.9%
ガイドヘルパー	0.0%	0.0%	3.7%	12.9%
短期入所	2.4%	0.4%	2.5%	9.9%
その他	4.4%	13.2%	2.5%	4.0%
特に利用しているサービスがない	4.7%	28.8%	39.8%	29.7%

●情報収集

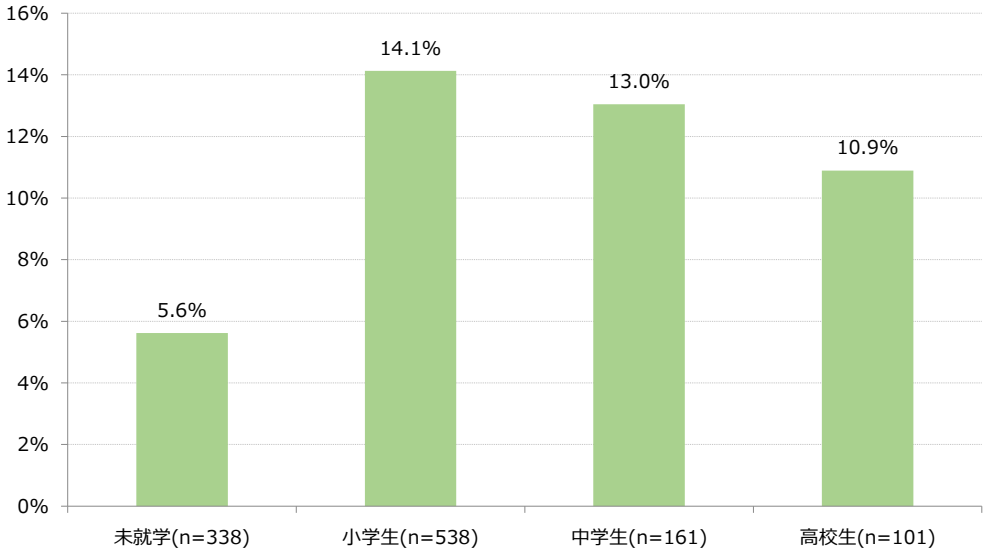
・情報源は、「在籍している保育園・幼稚園等や学校（約 49%）」「家族や友人・知人（約 44%）」「ホームページやアプリなど（約 25%）」の順で多く、「市の窓口と地域障がい者支援センター」は、それぞれ、約 6%、約 5%と低くなっています。「特にない」とする保護者は約 11%です。

■保護者：問９　保護者の情報源（n=1158）　速報版 p2-8



・情報源について「特にない」と回答した保護者は、小学生で最も多く約 14%で、中学生 13%、高校生約 11%と続き、未就学が約 6%と最も少ない状況です。

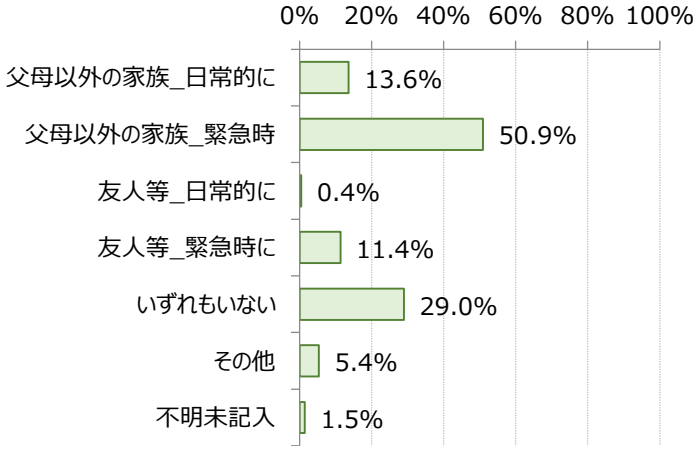
■保護者：問９　在籍別にみた情報源が特にない保護者の割合　速報版 p2-8



●困っていること

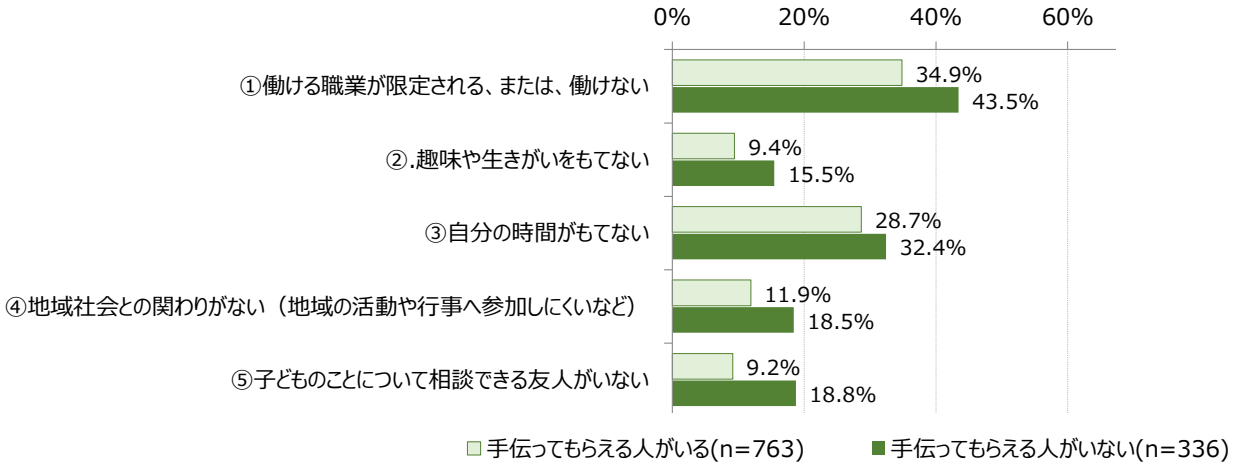
・日常の子育てについて、約 86%の家族が保護者のみで行っており、緊急時には、約 51%の保護者は家族の手伝いを得て、子育てをしています。29%の保護者は、日常的にも緊急時にも、手伝ってくれる人がいない中で子育てを行っています。

■保護者編：問 7　子育てを手伝ってもらえる人の有無（n=1158）　速報版 p2-6



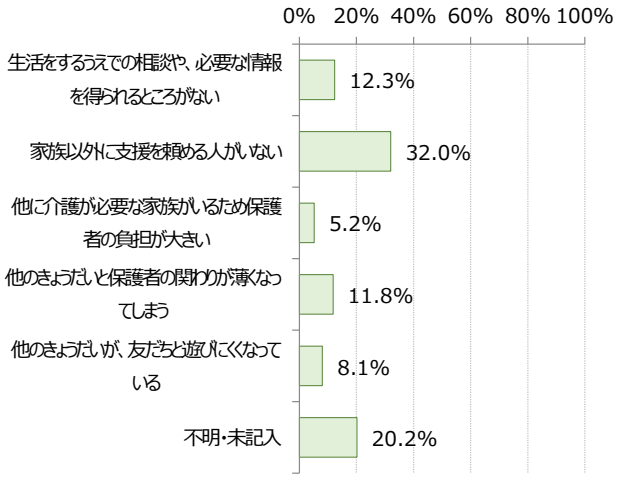
・保護者の状況として、子育てを「手伝ってもらえる人がいない」保護者は、「手伝ってもらえる人がいる」保護者と比較して、「働ける時間が限定される、または働けない」は約 9 ポイント、「自分の時間が持てない」は約 4 ポイント、「地域社会とのかかわりがない」が約 7 ポイント高くなっています。

■保護者編：問 10　手伝ってもらえる人の有無と保護者の状況について　速報版 p2-9



・生活で困っていることとして「家族以外に支援を頼める人がいない」人が約 32%で高くなっています。

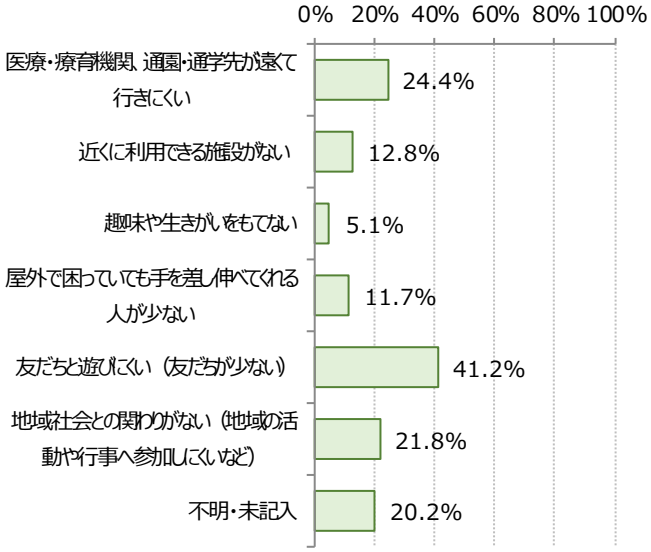
■保護者：問 10　現在の生活で困っていること（n=1158）　速報版 p2-9
（家庭に関すること）



・発達に支援を必要とする子どもについて、「子どもが友だちと遊びにくい（友だちが少ない）」（約 41%）、「地域社会との関わりがない」（約 22%）と感じている保護者が多くなっています。

・共に遊んだり学んだりする友だちやサポートしてくれる先輩の存在や、地域の子どもと一緒に遊んだり体験できる機会を望む保護者が多い状況です。

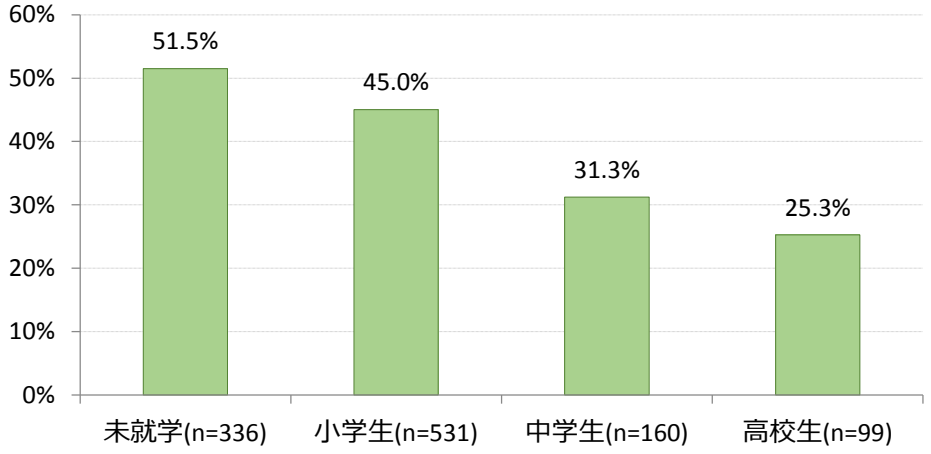
■保護者：問 10　現在の生活で困っていること（n=1158）　速報版 p2-9
（お子さまに関すること）



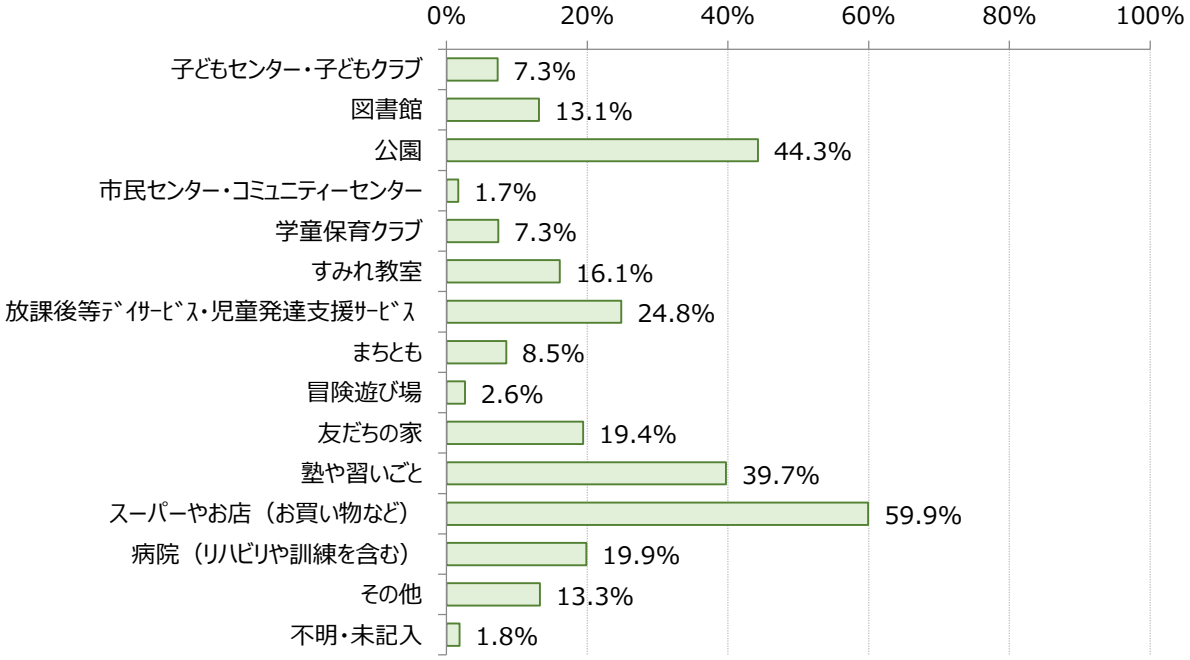
●成長に必要なこと

・「子どもの遊びや体験の機会の確保」については年齢が低いほど高く、特に未就学児は約52%、小学生は約 45%が必要としています。「主な外出先」として、お店（約 60%）や公園（約 44%）、習いごと（約 40%）が多くなっています。

■保護者編:問 11　成長に必要だと思うことの、「子どもの遊びや体験の機会の確保」の割合
速報版 P2-10



■保護者編：問 17　通園・通学以外の主な外出先（冒険遊び場、まちともの利用状況）
（n=1143）　速報版 P2-15



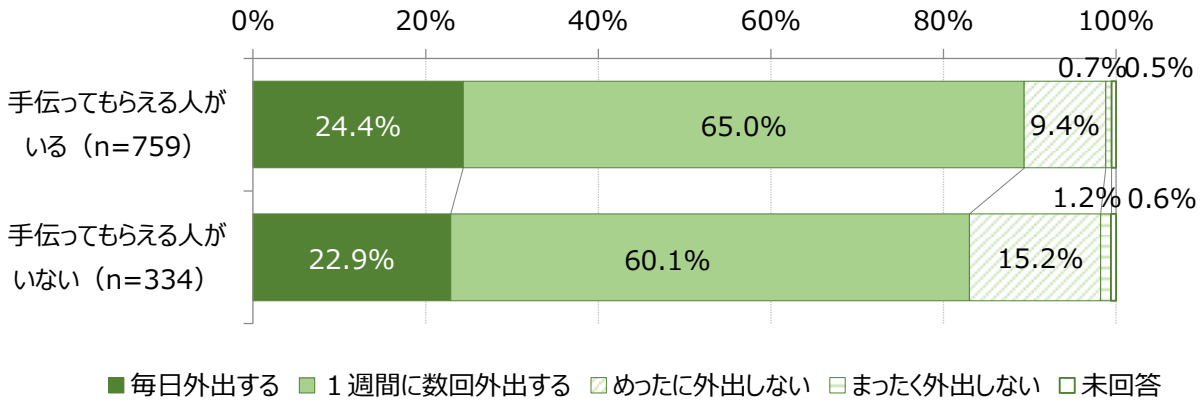
◆お子さまの外出や社会参加について

●外出の状況について

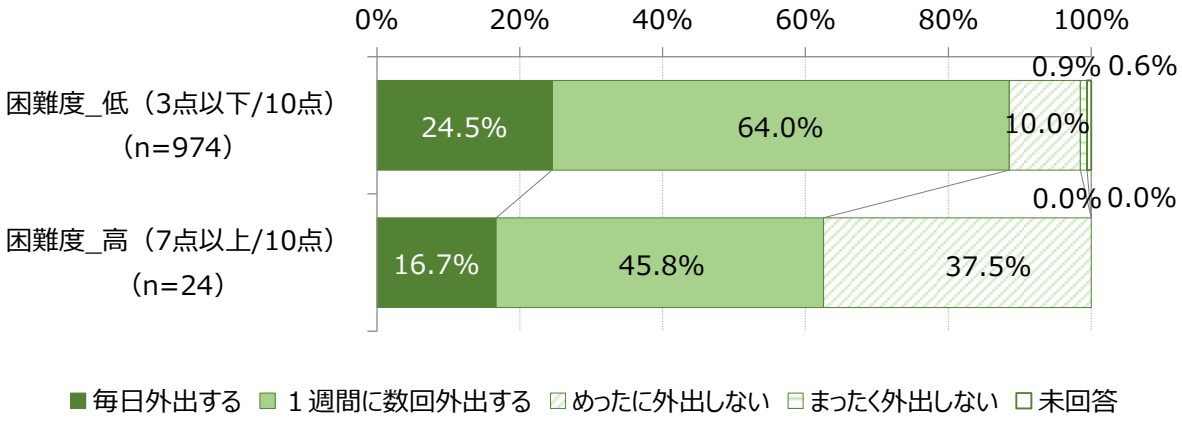
・生活で困っていることが多い保護者の約 38%は、「めったに外出しない」と答えるなど、子どもの外出頻度が少ない傾向があります。

■保護者編：問 16　保護者の状況と子どもの外出について　速報版 p2-14

〔保護者の状況：子育てを手伝ってもらえる人の有無〕



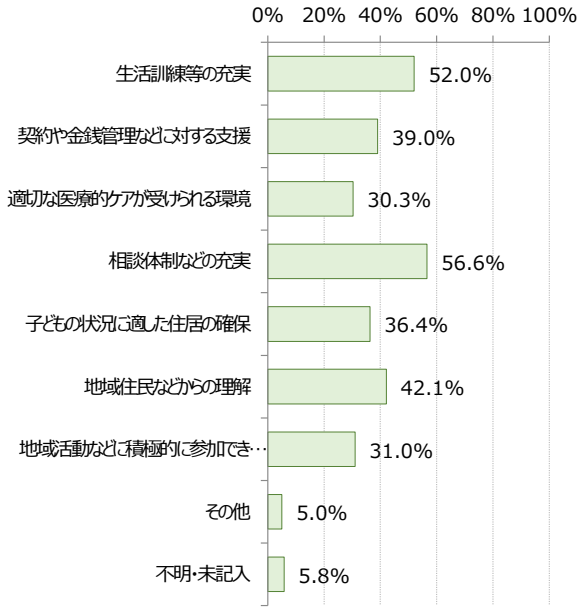
〔保護者の状況：生活の困難度〕（※10 項目中の該当数で困難度の得点とした場合）



●地域社会で生活するための支援

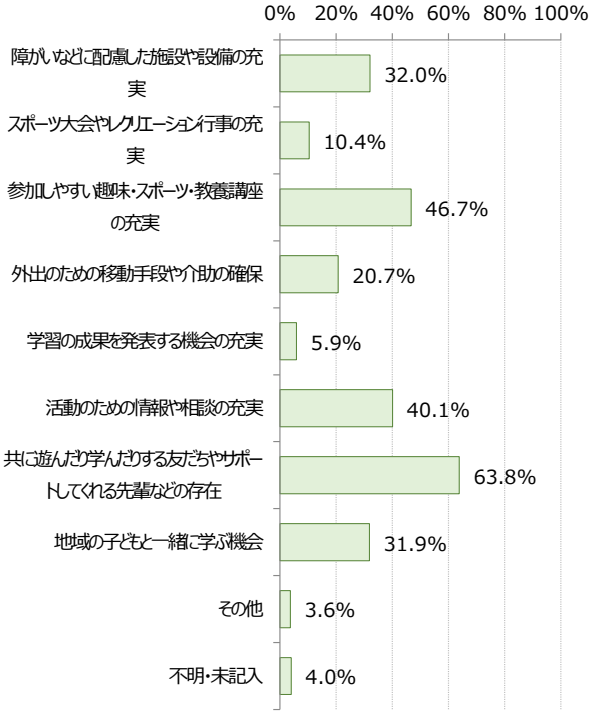
・発達に支援を必要とする子どもが地域社会の一員として生活するためには、自立して生活できるようになるための支援以外に、「地域住民などからの理解（約 42%）」や「地域活動などに積極的に参加できる環境（約 31%）」が求められています。

■保護者：問 19　地域社会の一員として生活するための支援（n=1158）　速報版 p2-16



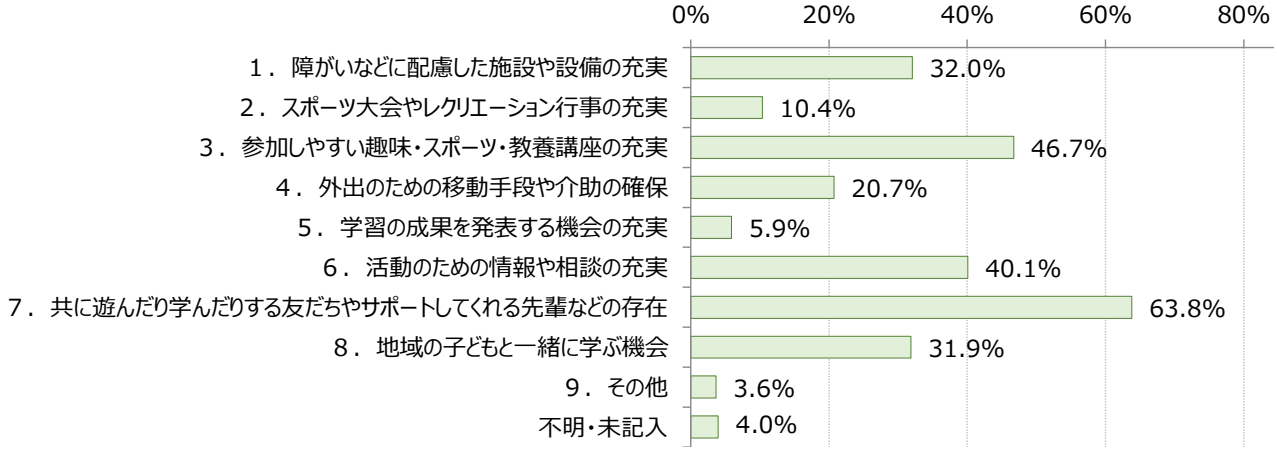
・障がいがある子どもが地域や社会へ積極的に参加するためには、「障がいなどに配慮した施設や設備の充実（約 32%）」、「外出のための移動手段や介助の確保（約 21%）」が求められています。

■保護者：問 20　地域や社会への積極的な参加のために必要なこと（n=1158）　速報版 p2-17



・積極的な社会参加のため、「友だちやサポートしてくれる先輩の存在（約 64%）」や、「参加しやすい趣味・スポーツ等の講座（約 47%）」、「活動のための情報提供（約 40%）」、「障がいなどに配慮した施設や設備の充実（約 32%）」を必要とする割合が高くなっています。

■保護者編：問 20　積極的な社会参加のために必要なこと（n=1158）　速報版 p2-17

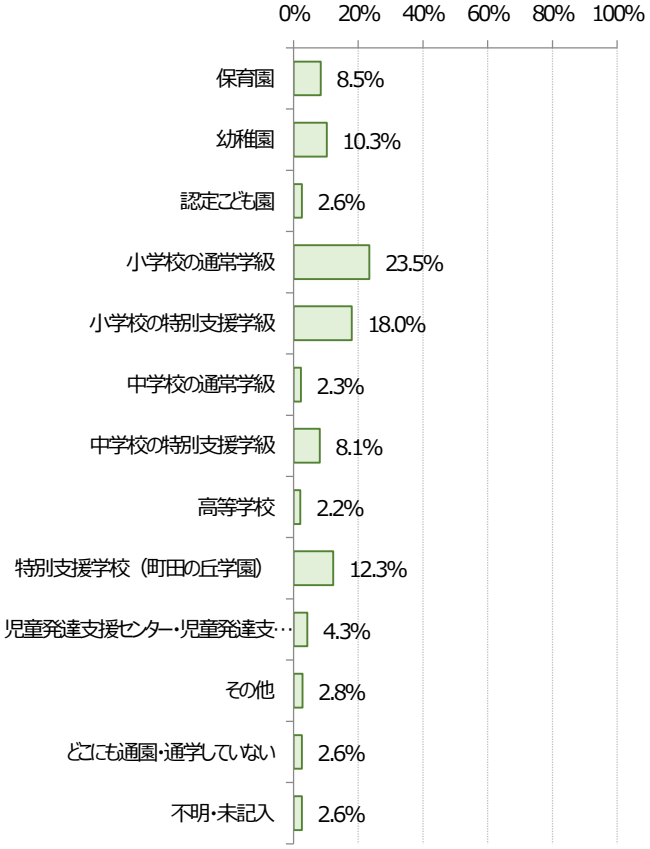


◆お子さまの通園・通学について

●通園・通学先

・発達に支援を必要とする子どもの通園・通学先は、特別支援学校が約 12%で、小・中学校の特別支援学級が約 26%であり、保育園・幼稚園等や小中学校の通常学級は、約 49%と、約半分の子どもは支援を必要としない子どもと一緒に過ごしています。

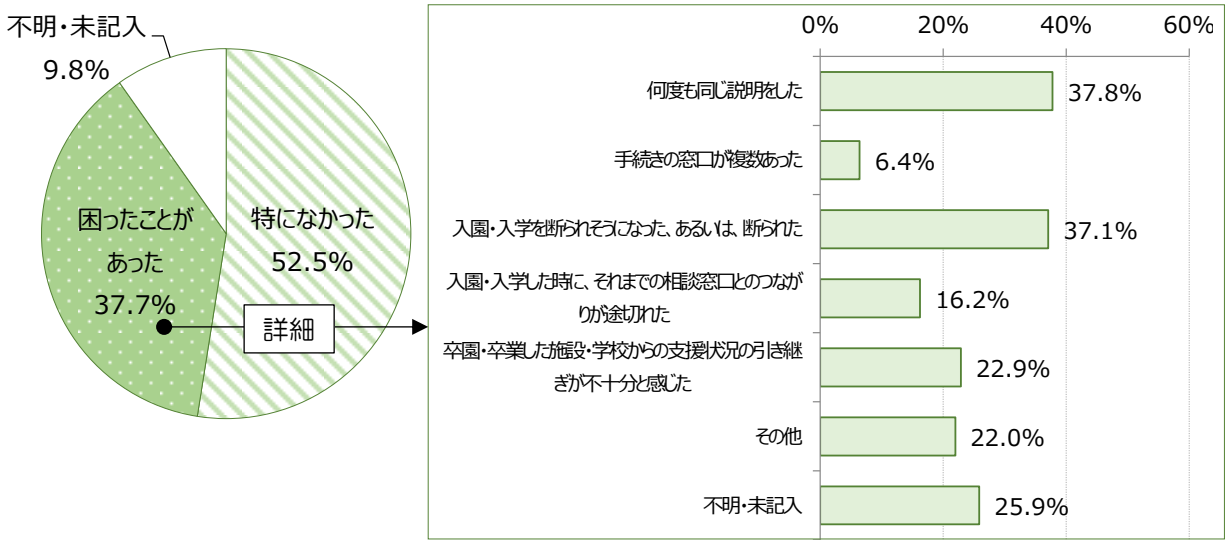
■保護者：問 13　通園・通学先（n=1158）　速報版 p2-12



●入園・入学する際や保育園・幼稚園等、学校生活で困ったこと

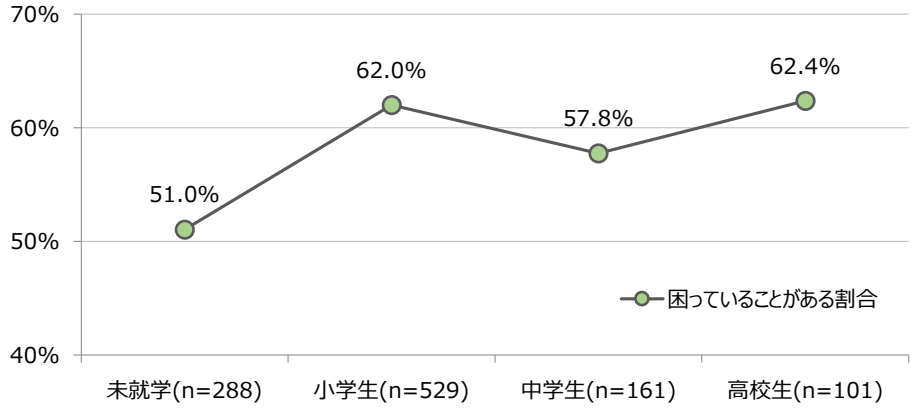
・障がいのある子どもが入園・入学する際に困ったことは特になかったとする保護者が約53%である中、困ったこととしては、「何度も同じことを説明した（約 15%）」「入園・入学を断られそうになった（約 14%）」とする割合が高く、「卒園・卒業した施設・学校からの引き継ぎが不十分（約 9%）」と感じている保護者もいます。（保護者編：問 12）

■保護者編：問 12　入園・入学時で経験した困った事（n=1158）　速報版 p2-11

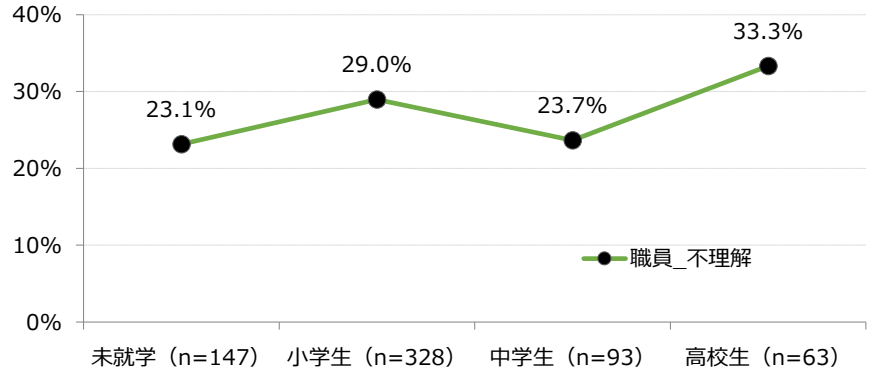


・子どもの保育園・幼稚園等、学校生活で困っていることがあるとするのは、高校生が最も多く、「職員の理解の不足」についても高校生で約 33%と他の年代より多くなっています。

■保護者編：問 14　子どもの保育園・幼稚園等、学校生活での困っていること　速報版 p2-13



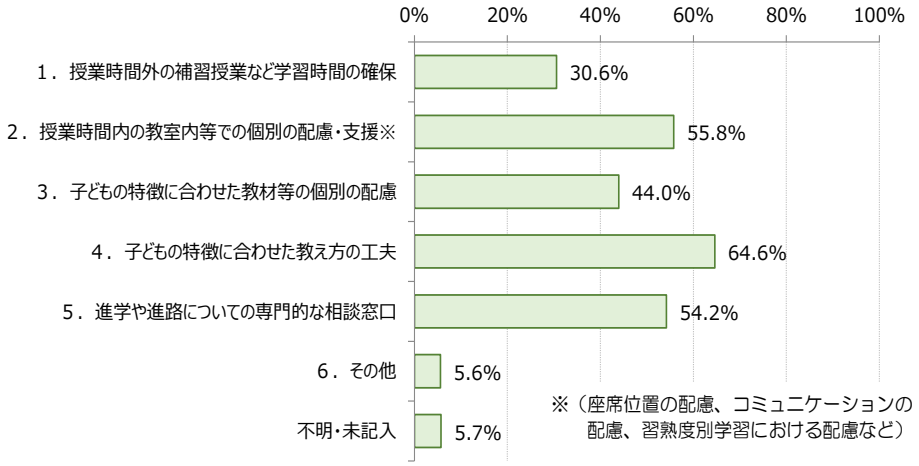
■保護者編：問 14　「職員の理解や知識の不足」を選択した割合　速報版 p2-13



●教育で必要な支援

・教育で必要な支援について、「子どもの特徴に合わせた教え方の工夫（約 65%）」、「授業時間内での配慮等（約 56%）」、「進学・進路相談（約 54%）」に対するニーズが高くなっています。

■保護者編：問 15　教育で必要な支援（n=769）　速報版 p2-14

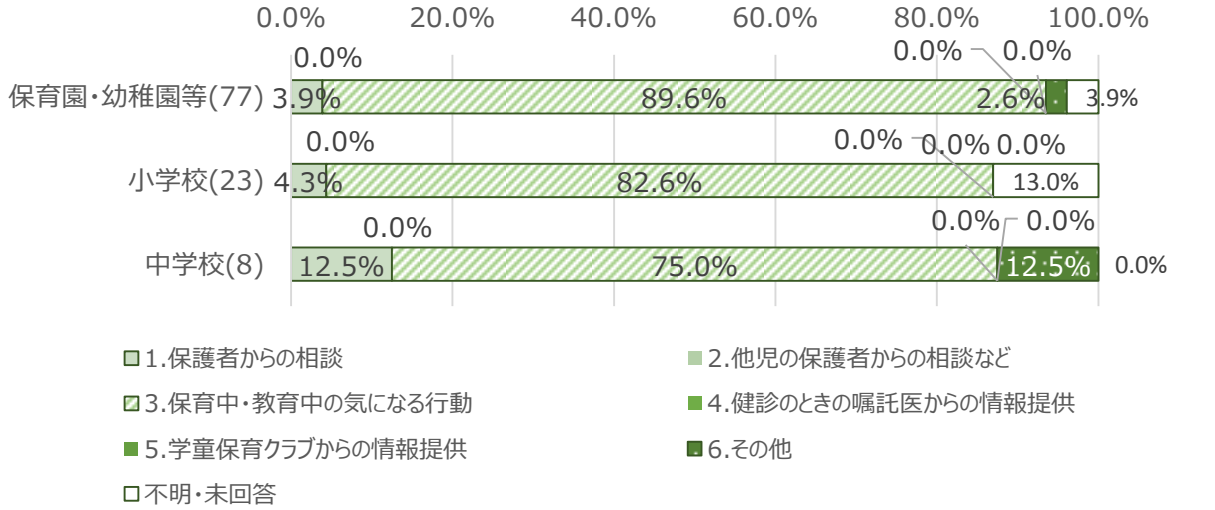


◆お子さまの発達特性に気づいた時期～支援につながるための状況について

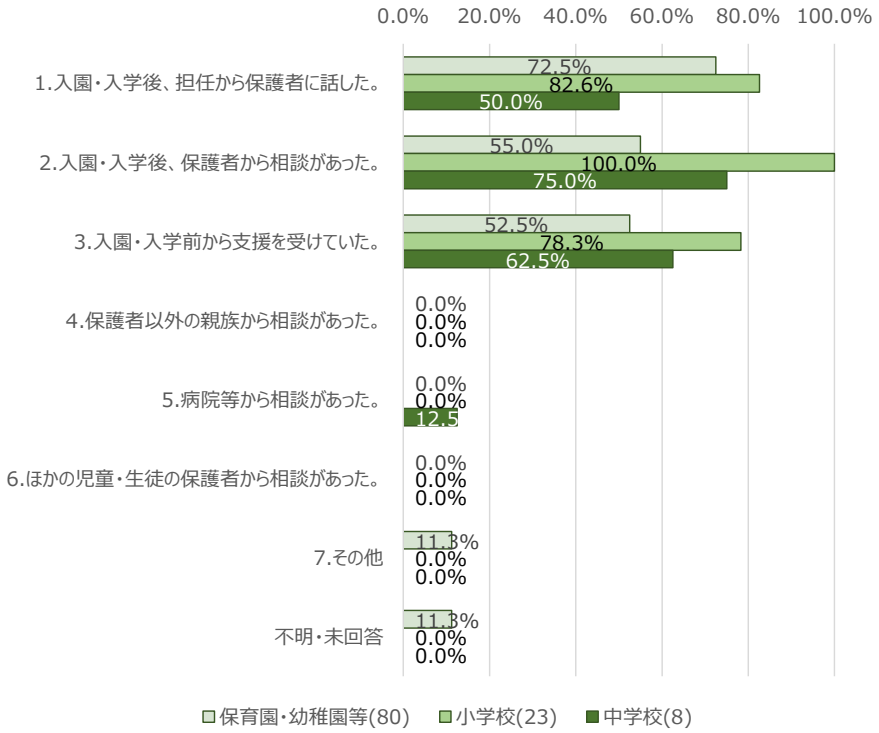
●気づいたきっかけと支援につながったきっかけ

・支援していない子どもも含め、「気になる特徴に気づいている」は約 11％で、保育中・教育中に気づくことが多くなっています。

■関係機関：問 5　気になる特徴に気づいたきっかけ（最も多いもの１つ）　速報版 p3-12



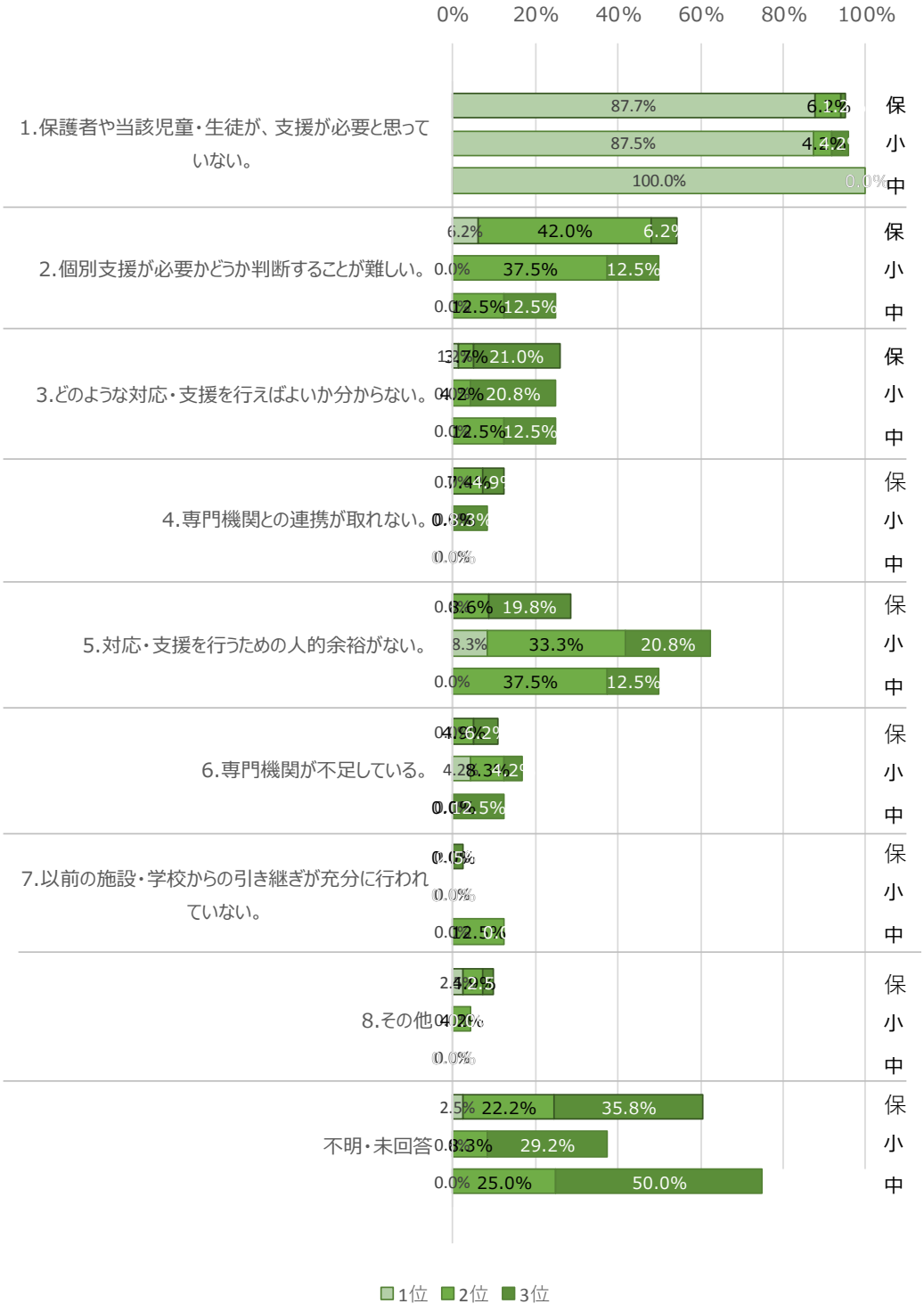
■関係機関：問 8　支援につながったきっかけ（n=112）　速報版 p3-22



●支援につながらない状況

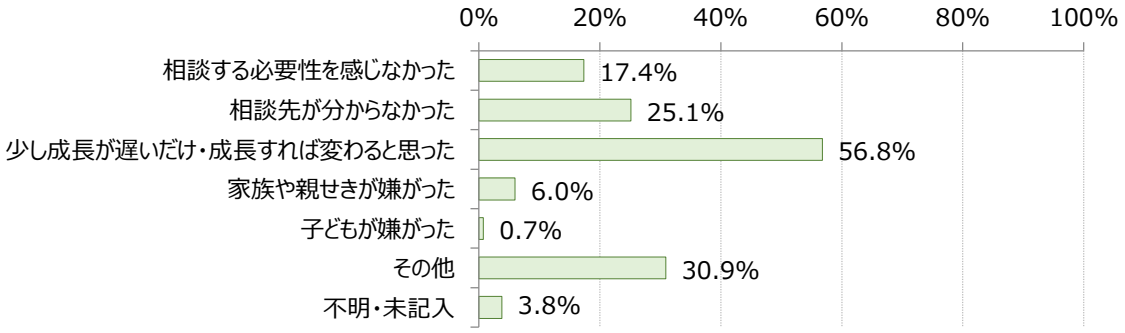
・子どもが毎日過ごす保育園や学校等の機関においては、気になる特徴が見られても、保護者等が支援を必要と思わないために、支援につなげられないと感じており（保育園等約 84%、小学校約 88%、中学校 100%）、保護者や子どもたちが、発達に関する支援の必要性や効果などを理解できる機会を増やすことが重要です。

■関係機関：問 10　「気になる子」を支援につなげられない理由（n=113）　速報版 p3-24



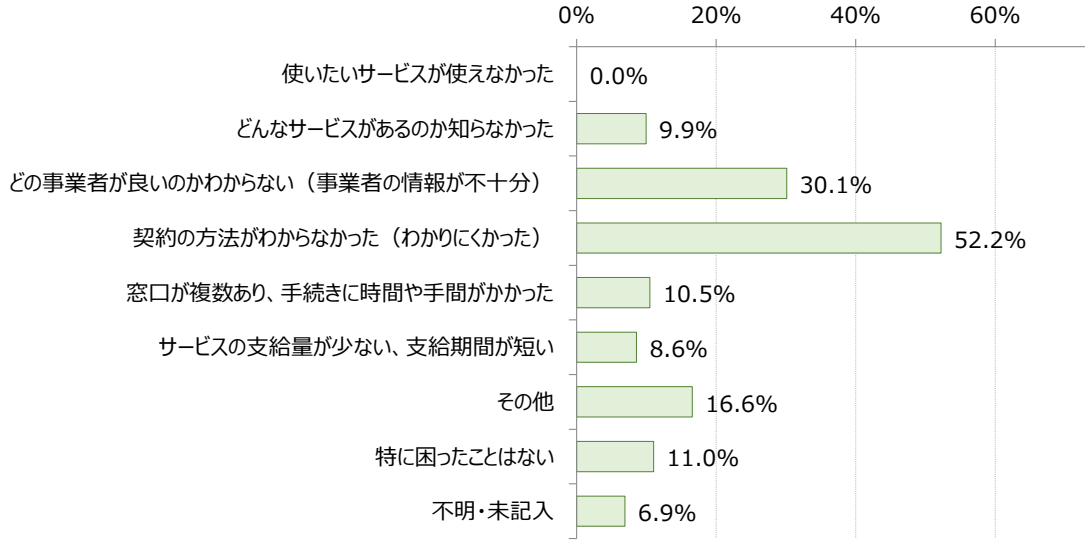
・一方、保護者は、相談先がわからないために、気になる特徴に気付いてもすぐ相談しない保護者が約 25%おり、また、保護者や本人自身が支援を必要と思わないこと（約 74%）で、支援につながりにくくなっている状況がみられます。

■保護者：問 23-1　子どもの特徴に気付いてすぐ相談を受けなかった理由（n=553）　速報版 p2-19



・サービスに対する正しい情報や契約方法が分からなかった経験を持つ保護者が多く（約 52%）、適切な情報提供に関する支援が必要です。障がいに対して正しく理解する機会の提供により、早期の支援につがなる可能性が高まります。

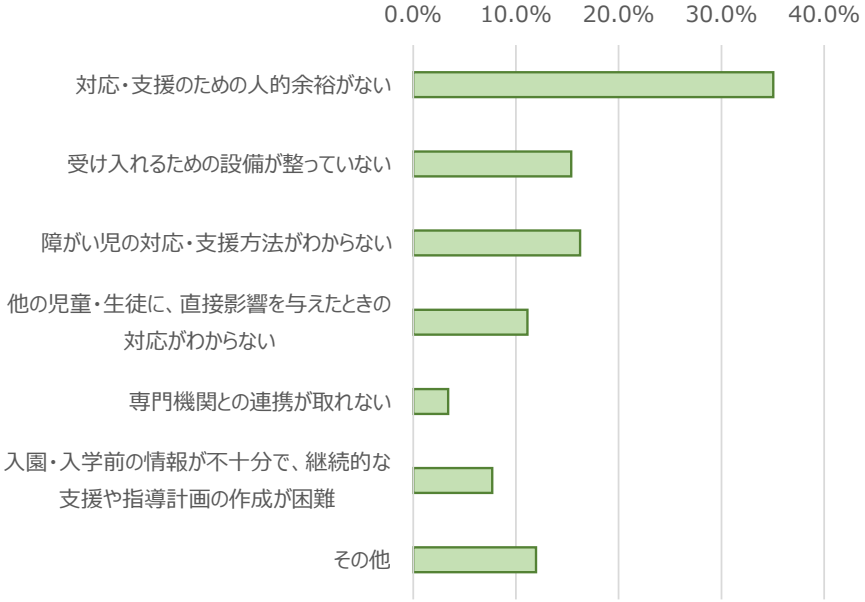
■保護者編：問 28　サービスを利用する時の困った事について（n=362）　速報版 p2-27



●保育園や学校等の機関における今後の支援

・子どもが毎日過ごす保育園や学校等の機関における障がい児への対応では、約３５％が人的余裕がないとしており、専門機関等との連携が必要です。

■関係機関：問 11　障がい児への対応で困っていること（障がい児受入施設 n=95）
速報版 p3-26



■関係機関：問 7　気になる子に対する専任職員あたりの児童・生徒数の平均
速報版 p3-16

	未就学児	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
	小学生	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生
	中学生	中学1年生	中学2年生	中学3年生			
保育園・幼稚園等(78)	1.69	1.00	1.00	1.50	1.31	1.45	1.94
小学校(24)	4.75	1.00	3.10	2.50	4.00	1.63	1.17
中学校(8)	7.06	4.00	10.00	－	－	－	－

■関係機関：問 17　障がい児への対応や支援で今後必要なこと（n=117）　速報版 p3-45